

会 議 録

会議名称	第3回柳川市民文化会館（仮称）基本計画検討委員会
日 時	平成27年1月30日（金） 14:00～16:00
会 場	柳川あめんぼセンター AVホール
出席者	[委 員] 立花委員、武末委員、森田委員、姉川委員、 椛島（道）委員、安永委員、古賀（理）委員、生田委員、 壇委員、大橋委員、椛島（和）委員、原委員、勝見委員、 今村委員、黒田委員、古賀（弥）委員、齋藤委員 [事務局] 椛島企画課長、野田企画係長、企画課企画係 江口 松尾生涯学習課長、堤文化係長、生涯学習課文化係 須崎、 (株)シアターワークショップ 伊東、今川
欠席者	[委 員] 草場委員、古賀（俊）委員、野田委員、大森委員
議 題 等	1 開会 2 会議録の確認 3 議題 (1) 1月18日 市民ワークショップの協議結果について (2) 柳川市民文化会館（仮称）で実施する事業（案）の検討について 4 その他 5 閉会
会議資料	資料① 第2回市民ワークショップのまとめ 資料② 市民文化会館（仮称）事業について 資料③ 白秋サミットちらし 資料④ 市民文化会館についての意見
次回会議	平成27年2月24日（火）10時から 柳川市城内コミュニティー防災センター

＜審議結果は次のとおり＞

1 開会

（商工会青年部の甲斐田委員に代わり、今回から原委員が参加される。）

2 会議録の確認

3 議題

(1) 1月18日 市民ワークショップの協議結果について

- ・中学校などの合唱コンクールは市民会館で既に行っている。これを引き継ぎ、もう少し発展していければよい。いい施設ができれば、そこで歌いたいということにもなる。
- ・過去数年の市民会館の大ホールのイベントで、好評なものをリストアップしたほうが良い。佐藤しのぶさんや森麻季さんの企画などは続けてほしい。
- ・小ホールとして200～300席のホールとピアノが欲しい。
- ・柳川の音楽状況がどのようになっているか確認する必要がある。
- ・施設の構成は基本構想のとおり、大ホールと小ホール機能を兼ねるイベントホール。イベントホールはどのくらいの小ホールが必要かを協議し、キャパを決めたい。大ホールも現状市民会館が1000席なので、これをベースにご検討、決定したいので700～1000席としている。
- ・鑑賞中心ではなく市民利用中心の施設にしたい。市民の皆さんが使い勝手の良い規模の施設としたい。
- ・新しい施設を建てるときは、どのようなことをやりたいのか、ハードはどうあるべきかの両面から考えていくことが必要。
- ・子ども達の合唱コンクールは指導者にもよるが、比較的に各学校でコンクールはやっていて、市民会館を利用している。
- ・学校単独でも合唱祭を企画することも考えられる。イベントをつくるのはこれからの問題で、事務局ができて、どれだけ企画を出すか次第。
- ・実際に市民会館が現状でどの程度使われているのか確認しておく必要がある。
- ・時代が変わると、使われ方も変わっている。福岡市の古い施設だが中、小の練習室がたくさんあり、大練習室もあって人が多かった。DJなども練習していた。工作室もあり演劇関係の人たちが製作も行ってた。
- ・柳川市民会館は、大ホール、諸室の利用状況は、大ホールは稼働率27.3%。会議室は利用率のみで第1、第2会議室は4割程度、第5会議室は5割

近い利用。

- 会議室の「事前準備」とはイベントに付随した利用のこと。
- 柳川では、練習や演奏家を呼んでの演奏会はなかなかできていない。
- 最近のホールで面白かったのは、小さな小部屋がいくつかあって、それぞれの専門家が練習等に使っていた。更に大、小ホールもあり、若者が多かったように感じた。
- 音響効果の良い200人前後の小ホールがあり、加えて小部屋があれば、集いやすくなり、足を運びやすくなる。いろいろな用途に使ってもらえるようになる。
- ホールのみではなく、市民が集ってものづくりをしていくことは、おおきなコンセプトになる。
- 利用料は、5割であれば空調までいれて5割という減免基準とすべき。ホールを無料にするとキャンセルが多くなり、マナーが悪くなる。
- ホールはプロ利用と考えるのであれば、ホールと練習場は分けしておく方がよい。
- 柳川市は、音楽人口は多い方。
- 素人が興業を行うことはなかなか難しいので、「コンサートを増やすために、イベント会社とタイアップ」という意見を入れておいてはどうか。
- 文化協会は、音楽だけではなく全体に関係する。会場がしっかりあって、小部屋もたくさんあって、いろいろなものを一度に見られる施設が欲しい。
- 3つの文化協会を一本化して行っているのは、年一回3月の芸能祭のみで、大ホールを使っているが、1日では時間が足りない。一本化するには大きな会場が必要。
- 何も催しが無い日も、親子連れが行くだけで活気が出るので、親子が遊びに行ける場所をつくってほしい。
- 育成の部分で、指導者の育成のためのソフト事業が欲しい。
- 声楽をやる人は必ず一度は歌う北原白秋の歌に縁のある場所なのに、白秋を歌うシーンが柳川の中には少ない。市外から北原白秋の歌を歌いに来たいという人はたくさんいる。新しい施設ができるのであれば、白秋についての情報発信や、指導者の育成のきっかけが欲しい。
- 大ホールはアクロスとかに任せて、柳川らしい200～300席のホールとピアノが欲しい。柳川でないとできない、柳川らしいホールとすべき。
- 「水の郷」が近くにあるので、会議室などの機能が被るものは無くてよい。できることは既存施設でやるべきだし、今からイベントとして始めていくべき。新施設には、立派なホールと立派な部屋、音楽であれば準備室・

- リハーサル室など、出演者への利便性を上げた施設が良いと思う。
- ・市民ワークショップの参加者が音楽関係の人が多かったので、音楽しか意見が出ていないのではないかと心配。古典、日本舞踊、演劇等の話が出ていないので、偏らないように検討すべき。
 - ・以前は「子ども劇場」という団体があり、定期的に公演があったが、運営が難しくなり継続できなくなった。新しい市民会館が主催で会員を募るなどして、平日の夕方などであれば親子も参加しやすいので、子供向けの鑑賞事業を計画してほしい。
 - ・子供劇場は200人位の子供に限定されてしまうので、ホールの企画としては、子ども全員に見せることを考えなければならない。
 - ・子ども達には、体育館で演劇や音楽の鑑賞ではなく、きちんと劇場で鑑賞してほしい。
 - ・利用規則で「無料」という意見があるが、粗雑に使われてしまうことが多いと聞くので、無料にするところと有料とするところをきちんと分けるべき。
 - ・運営体制については、直営、指定管理、その他の方法も含め、柳川にとってどれが一番良いか、意見を聞いて決めたい。
 - ・指定管理期間は5年が最大なので、職員の雇用の保証ができない。ホールは性格的に長期的視野でものを考えなければならないので、指定管理者制度とは矛盾がある。
 - ・指定管理の契約期間5年のうちに施設が老朽化する。誰が修理を行うのかを明確にしておく必要がある。

(2) 柳川市民文化会館（仮称）で実施する事業（案）の検討について

- ・会館に直接アクセスできる船着き場を是非つくって欲しい。
- ・2月から「さげもんめぐり」があるが、一室くらいは「さげもん」が見られるスペースが必要ではないか。
- ・童謡に関して楽譜の充実を行ってもらいたい。そこに行けば子供が練習できるようにしないと駄目。
- ・2、3年に一回は、九響程度を呼べる柳川に成長してもらいたい。
- ・学校でやっている鑑賞会を市民会館でできるようにしたい。
- ・プロデューサーの養成。
- ・全国の声楽家や合唱団を招いて歌えるステージがあれば、柳川で歌ってみたいと思うようになる。子ども達もそれを聴いて、憧れたり、音楽に興味を持ったりするので、良いホールや文化会館ができると良い。
- ・外の人に興味を持ってもらって、地元の良さを感じてもらえるようにし

- たい。地元を大事にすることに加え、外に発信していくように、活動を報告することなどで広げていけると良い。
- ・市民の文化の向上の為に、本物を見て聴いて体験してもらいたい。特に若い人、子ども達に本物の芸術文化を体験してもらうことが文化の向上につながる。
 - ・若手後継者、柳川の経営者を増やすための講演会等の事業があれば一緒にやっていきたい。
 - ・飲食、喫茶店などがあると街並みの顔にもなる。
 - ・市外の商工会などとの合同講演会等で、もっと柳川を知ってもらえる。
 - ・船着き場があると、より柳川らしい施設になる。
 - ・文化会館にこだわらず、ここを拠点にして複合化した施設にしてはどうか。コミュニティー施設、体育施設、美術館、観光案内施設、コンベンションなどを考えると交流のできる施設になる。
 - ・インフォメーション、映像を使った観光案内などもあってもよいのではないか。
 - ・「市民が制作した各種芸術作品等」の中に、デジタル映像・デジタル音楽を含めると良い。
 - ・地方から起こして中央に向かっていく創造をつくっていくことが重要。地域の創造性をつくり出していくのが、これからのホール。
 - ・人材育成もホールの役割としては大事。指導者の育成、アーティストの育成、企画立案のできる人材を育てることも重要。他のジャンルへの関わり方をどう考えるのか、まちづくりを文化の視点から考える人材を育成することも大切。
 - ・雛飾りの為の部屋は、一年中飾りが見られるよう常設が良いと思う。
 - ・今からボランティアをつくった方が良い。社会教育が主導して行うべき。建ってからでは遅い。
 - ・子どもの育成事業は絶対に外してはいけない。子どもがそこに来ると次の世代に繋がるので、是非やっていただきたい。
 - ・「観光と芸術が結びついたまち」ができればよい。
 - ・会館が、柳川を象徴するものとなるとよい。
 - ・市民の皆さんにもっと周知していくことが大事。行きやすいチラシにして広めていただく必要がある。

4 その他

- ・白秋サミットの報告

5 閉会